

アイヌ語に由来する
石狩市内の地名と植物

北海道の地名の多くは、アイヌ語が元になって生まれたものです。その中には、暮らしに利用していた植物が地名の由来になったとみられるものもあります。今では、はつきりと検証できないものもありますが、今回は石狩市内の植物に関連すると思われる地名を探ってみましょう。

「志美」は、石狩川下流左岸に位置し、アイヌ語に由来する「シプシプシ」から、トクサの多く生えるところを意味します。トクサは、ヤスリのように木製品の研磨に用いることで知られています（写真①）。

「厚田」は、諸説ありますが、厚田の「アツ」はオヒョウの樹皮および内皮から採った繊維とする説があります。アイヌ民族の衣装を作る織物「アットウシ」の名称も、この木に由来するといわれています。かつて厚田村では、この内皮の繊維をニシン漁などに使用する木造船の浸水（アカ）止めなどにも利用していたようです（写真②③）。

「ボクサナイ」は、厚田川右岸に牧佐内川が合流する辺りで、アイヌ語に由来する「ボクサウシナイ」から、ギョウジャニンニクの多い沢の意といわれています（写真④）。

「送毛」は、浜益区南部に位置し、アイヌ語「ウクリケ」から、タチギボウシ（アイヌ語 ウクルキナ）の群生地とする説があります（写真⑤）。



写真④
ギョウジャニンニク



写真①
トクサ



写真⑤
タチギボウシ



写真②
オヒョウ



写真⑥
エゾノリュウキンカ



写真③
オヒョウの繊維を用いた
船のアカ止め（籠の中）

「プエシ」は、浜益川上流左岸の支流に位置し、現在の地図には載っていませんが、明治発行の地図に記されているものがあります。アイヌ語「プイウシ」から、エゾノリュウキンカ（別名ヤチブキ）に由来する説があります（写真⑥）。

今では、由来となった植物がその地名の場所で見られないこともあります。ここに紹介する植物はいずれも石狩市内に自生しています。間もなく雪が解け、芽吹き季節を迎えます。地名の由来とともに、身近にある自然と歴史の軌跡に触れながら、植物のある風景を楽しんでみてはいかがでしょうか。

（荒山千恵）

写真②④：厚田区地域おこし協力隊 江崎勇人撮影
写真①③⑤⑥：筆者撮影



石狩市学芸員
荒山千恵 Chie Arayama

専門分野は考古学。北海道での遺跡発掘調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。